

さかど

ロイヤルの園だより

発行
(福)栄光会
さかどロイヤルの園
坂戸市大字森戸 739-1

「家族の思い」

三層瑠璃のくんだり
介護職員

まだまだ暑い日が続いていますが、今年も半分過ぎようとしています。コロナの影響で色々出来なくなっている中、三層浅緑・瑠璃ではご入居者が笑顔になれるような行事を考えています。職員も一緒に楽しみたく考えている節も大いにあります。

その中で私も九月の行事「敬老会」を担当しました。毎年このことではありますが、「いかに思い出に残るものにするか」ということに悩みました。ご家族様が来れない状況でもご家族様と一緒に祝いができるば……。そこで考えたのが「ご家族からのお祝いのメッセージカード」でした。ご家族様にメッセージの依頼はがきを送り、返信されてきたものを敬老会で披露しようというものです。

お祝いのメッセージはもちろんなのですが、ご家族様からの施設に対する思いが最初に書かれており、一枚一枚読むごとにグッとくるものがありました。これを読んだ瞬間に「園だよりにはこのことを書こう！」と思いました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ご家族の皆様ご協力ありがとうございました。そして、あたたかい言葉ありがとうございます。

敬老会は笑いあり、涙ありと心に残る会になったのではないかと思います。これからもご家族様の思いを受け止めながら行事を続けていければと思っています。



「家族の思い」

二層鶉のくんだり
介護職員

朝、晩が涼しくなる季節となってきました。体調などいかがでしょうか？

さて、「敬老の日」はもともと九月一日だったそうです。「敬老の日」の由来とは日本生まれの記念日で、昭和二二年に兵庫県多可郡野谷村（現在の多可町）で、「お年寄りを大切にし、お年寄りの知恵を生かした村づくりをしよう」という考えの元、「年寄りの日」が提唱されたのが始まりです。農閑期でもあり、気候も良い九月一日を定め昭和二五年には兵庫県全体に広がり、次第に全国に広がっていったそうです。その後「年寄りの日」ではなくもっと良い呼び方にしようということ、昭和三九年に「老人の日」と改称され昭和四一年に国民の祝日「敬老の日」となったそうです。他にも諸説あるようですが……。二〇〇二年まで「敬老の日」は九月一日と決まっていたましたが、ハッピーマンデー制度が適応され、二〇〇三年から九月の第三月曜日になる事が決まったそうです。

二層亜麻・鶉では少し早いですが九月一日に敬老会のお祝いをさせて頂きました。和菓子やケーキ等美味しそうに召し上がっており、職員手作りのメッセージカードをお渡ししたり短い時間ではありましたがみなさんとても喜ばれていました。

現代社会において身近な人を大切に、感謝する気持ちの思い出させてくれる休日です。おじいちゃん、おばあちゃん、「両親など大切な人へ」いつもありがとうございます。という気持ちをぜひ伝えてみてください。



「敬老会 写真」



「特別な夏」

四層亜麻のくんだり
介護職員



私がこの文を書いております九月中旬には、まだまだ三十度を超える日もあり、残暑厳しい日々を送っておりますが、皆様は健やかに過ごしていらっしゃいますか。

私は毎年この時期、日に日に涼しくなり過ごしやすい季節につれ、夏の終わりに寂しさを感じていました。夏の終わりのもの悲しさがあつて、しんみりとしていたものです。秋というシーズン自体は、私は一年の中で一番好きな季節です。ワクワクする気持ちもあるのですが、どうしても「夏が終わる」と考えると寂しい気持ちが生まれてしまっていました。ですが、今年は特別な年だけあつて、物悲しさをあまり感じません。夏祭りも花火も盆踊りも海水浴も無かつたのですから、夏が終わると言ってもピンとこないのです。

当施設でも毎年行っている納涼祭を今年は規模を縮小して施設の中で行うことになりました。残念ながら「この時世ですので、今年も盆踊りのないお祭りになっていますが、ご入居者皆様楽しんでいただけよう、職員一同準備に忙しくしています。飾り付けの製作などではご入居者も手伝ってください、特別な夏でも忙しく楽しく過ごさせていたいただきました。

そんな特別な夏も、もう終わります。夏が終わって秋になり、今年ももうすぐ終わる……と思うと、一年が終わるのが今年早く感じられます。自宅で過ごす時間が多かったために、余計にそう感じます。

来年か再来年か、早くいつもの夏が戻ることを願って。季節の変わり目には体調を崩すことがありますので、皆様もお体「自愛してお過ごし下さい」。



「情報」

二層瑠璃のくんだり
介護職員



毎日ニュース番組では様々な情報が伝えられています。「コロナウイルス」が発生してから、この病気について様々な情報が流れました。しかし、必ずしも正しいものばかりではなく、また、人により解釈の違いのある情報も多くありました。たくさんある情報の中からいかに正しい情報を正しく理解するかは受け取る自分が行わなければと感じました。

介護の現場においても情報はとても重要です。ご入居者から発せられる情報は多くあり、言動のような目で見えるものや記録など、見直すことにより気付ける情報は多岐にわたります。この情報はユニット職員や相談員、医務と共有することでご入居者の体調や気持ちなどを正しく理解でき、ケアに繋げることが出来ます。

これからも、日々の気づきを大切にして多職種で情報を共有し、ご入居者のより良い暮らしに貢献したいと思っております。



「巣ごもり行事」

一層瑠璃のくんだり
介護職員



今年に入り、新型コロナウイルスが流行しガラッと私たちの生活は変わりました。またコロナ関連の新語として「三密」や「濃厚接触」、「集団感染」、「おうち時間」、「巣ごもり需要」などの言葉を連日ニュース等で耳にするようになりました。

一層では新型コロナウイルス流行前は行事やご入居者の誕生日等で外出し、公園に行き散歩したり、外食などに出掛けたりもしました。そのことを楽しみにしていたご入居者も多くいらっしゃいました。ご入居者は連日テレビのニュースでしか新型コロナウイルスの情報がなかったため、私たち職員は「外に出るとマスクしている人がほとんどですよ。」「休みの日なのに外出している人も少ないですよ。」「と外の様子を伝えたりしました。ご入居者の方も「いつになったら出掛けられるかね。」「と言われているのです。

そんな中、一層では外に出れないため、数多くの巣ごもり行事を行いました。私も月二回ペースで行事を担当しました。「粉もんパーティー」と題し、お好み焼きやたこ焼き、ホットケーキ作りを担当しました。ご入居者の方と一緒に作り、召し上がり、とても楽しまれておりました。今ではご入居者の方から「次は何の行事があるのか楽しみ！」とよく言われます。外に出れないのも残念ですが、巣ごもりとなってしまっても楽しめることは、たくさんあると実感しました。コロナ収束は、まだ時間が掛かると思いますが、それまでは室内でできる巣ごもり行事でご入居者の方が楽しんで生活できるよう頑張りたいと思っております。

